

## 支部便り

## 中国四国支部第11回講演大会の開催報告

### Report on the 11th Annual Meeting of Chugoku and Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

中川 恵友  
Keiyu NAKAGAWA

中国四国支部第11回講演大会が、令和元年8月3日(土)に岡山理科大学岡山キャンパスにて開催された。本学での開催は平成22年の第2回大会以来9年ぶりとなる。岡山理科大学岡山キャンパスは、岡山市街を一望できる半田山の中腹にあり、自然に囲まれた広大な敷地に本大会の会場となった新館のA1号館やA2号館をはじめ多数の校舎群が機能的に配置されている。

参加者の総数は66名で盛況な大会となった。講演件数は学生33件、社会人5件の全38件であった。本講演大会の趣旨には、これまで学会発表を経験していない学生や日本語を苦手とする留学生にも広く発表できる機会を提供することがある。今回学生の講演発表の内6件は留学生による英語での発表であった。今後もさらに学生の発表とともに留学生の英語による発表も増加することを期待している。本講演大会では上記のことから、学生には“優秀講演賞”，教員・企業など社会人の方々には“研究・開発奨励賞”が授与されている。

今年の優秀講演賞は以下の13件が選出された。「有限要素法解析によるAZ31マグネシウム合金薄肉円筒成形の多段工程設計」(岡山理科大学 後 公大)、「予変形によって変形双晶を発現させたAZ31マグネシウム合金薄肉円管の力学的挙動」(岡山理科大学 趙 薪茗)、「高温高压合成により作成された $Mg_{88}Zn_6Y_9$ の機械的特性」(愛媛大学 山内大輝)、「Ti-10Mo-7Al合金における短時間焼戻しで生じるマルテンサイト変態」(岡山大学 安野実希子)、「Ti-8Mo合金におけるスピノーダル分解挙動」(岡山大学 鈴木雄基)、「真空レーザ積層造形したチタンの組織に及ぼす酸化物添加の影響」(鳥取大学 大津 彬)、「酸化物を添加した純Tiの3次元積層造形における加工パラメータの影響」(鳥取大学 大澤 守)、「Ti-15V-7V合金の焼戻し組織変化に及ぼす焼戻し温度の影響」(岡山大学 真部侑司)、「Ti-25Nb合金において熱処理条件の違いによる微細組織、 $\alpha''$ 相の変化の検討」(香川大学 伊井 杏)、「Ti-Mo合金の時効後期における相分解挙動に及ぼす酸素添加効果」(愛媛大学 堀口智弘)、「Ti合金の金属組織が骨芽細胞挙動に与える影響」(愛媛大学 深田基史)、「高温はんだ用Bi合金の設計と特性評価」(広島大学 山田耕平)、「Niメッキ処理した炭素繊維/アルミニウム複合材料の熱伝導率の向上」(鳥取大学 山本貴士)。また、研究・開発奨励賞には以下の2件が選出された。「プラスチック射出成形を用いたアルミ-エンプラマルチマテリアルの創成と実用化」(㈱サーテック永田 永田教人ほか8名)、「電解複合研磨後に得られるアルミニウム合金表面状態に及ぼす研磨条件の影響」(岡山県工業技術センター 築山訓明ほか2名)。皆様の受賞を心からお祝い申し上げるとともに今



図1 講演発表の様子



図2 表彰式後の受賞者の集合写真

後のさらなるご活躍をお祈りします。講演大会終了後は恒例の懇親会がA2号館最上階で開催された。懇親会の参加者は学生26名、社会人20名の合計46名であった。懇親会では学生同士、そして、教員と学生もお互いにリラックスした雰囲気でき自由な交流ができ全員が大変有意義な時間を過ごすことができたと思われる。また、懇親会の後半に優秀講演賞と研究・開発奨励賞の表彰式が挙行された。受賞者には小林支部長より賞状が授与され会場の雰囲気は最高潮に達した。

最後に、本大会開催につき、猛暑の中多数ご参加頂いた皆様、また、支部役員ならびに本学実行委員の皆様には多大なご協力を頂き厚く御礼申し上げます。次回、鳥取大学での第12回大会においても皆様方とお会いできるのを楽しみにしています。